(令和3年度在宅医療関連講師人材養成事業 訪問看護分野)

「令和3年度訪問看護講師人材養成研修会」受講者 研修会受講後活動に関する調査

~看護師~

【結果】

2022年2月28日

一般社団法人全国訪問看護事業協会

調査概要

目的

「令和3年度訪問看護講師人材養成研修会」を修了した受講者がどのような活動をしているかを把握するために調査を行った。

調査対象

「令和3年度訪問看護講師人材養成研修会の受講者(看護師)」102人

調査方法

メールに記載されたアンケートのリンク先より、Webにて回答を得た。

調査時期

令和4年1月6日から1月28日まで

回収状況

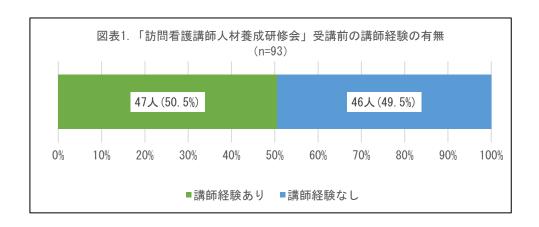
受講者 102 人のうち、93 人より回答を得た。

回収率:91.2%

I. 基本情報について

1. 「訪問看護講師人材養成研修会」受講前の講師経験の有無

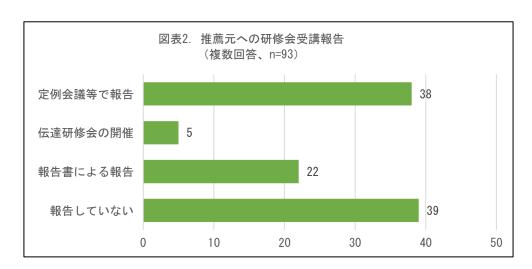
「訪問看護講師人材養成研修会」の受講前の講師経験について 「経験あり」としたものは50.5%(47人)、「経験なし」が49.5%(46人)であった。



2. 推薦元への研修会受講報告

推薦元(都道府県、訪問看護ステーション連絡協議会、看護協会等)への研修会受講報告の 方法について

「定例会議等で報告」が 40.9% (38 人)、「報告書による報告」が 23.7% (22 人)、「伝達研修 会の開催」が 5.4% (5 人) であった。なお、「報告していない」は 41.9% (39 人) だった。



報告していない理由としては

「コロナ禍で定例会議が開催されていない為」

「グループの代表が報告している」

「電話・口頭での報告のみ」

「今後する予定」

「受講報告をするという認識がなかったため」

「業務多忙のため」

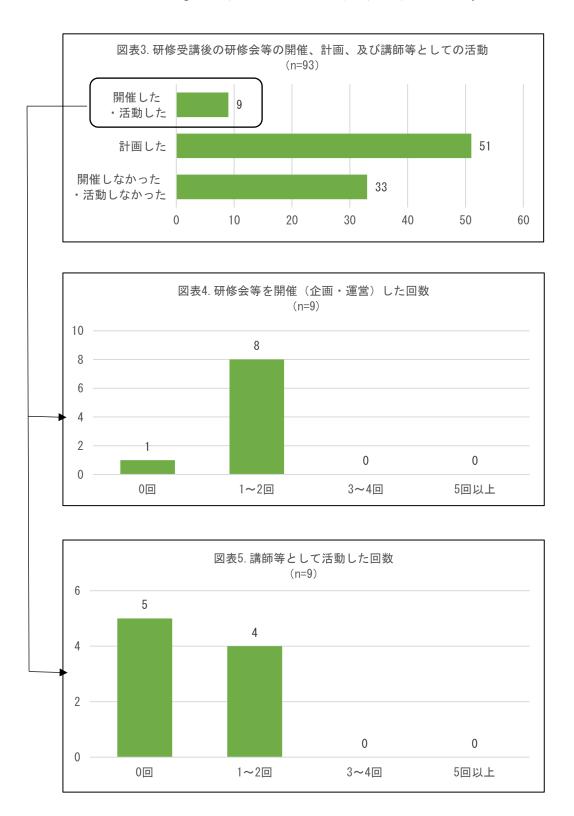
「報告を求められていない」

「研修会の開催ができておらず報告できる内容がない」

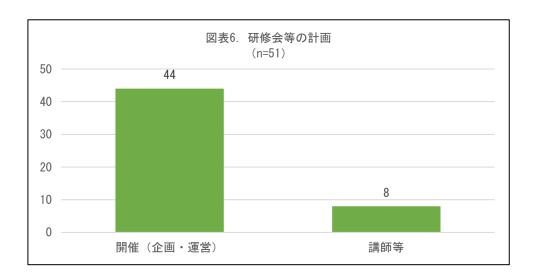
Ⅱ. 「訪問看護講師人材養成研修会」受講後の地域での活躍について

1. 訪問看護人材の確保や訪問看護の推進・普及に関する研修会等の開催について

1)研修受講後の研修会等の開催、計画、及び講師等としての活動 研修受講後、訪問看護人材確保や訪問看護の推進・普及に関する研修会等について「開催した・活動した」が9.7%(9人)、「計画した」が54.8%(51人)であった。一方「開催しなかった・活動しなかった」と回答したものは35.5%(33人)であった。

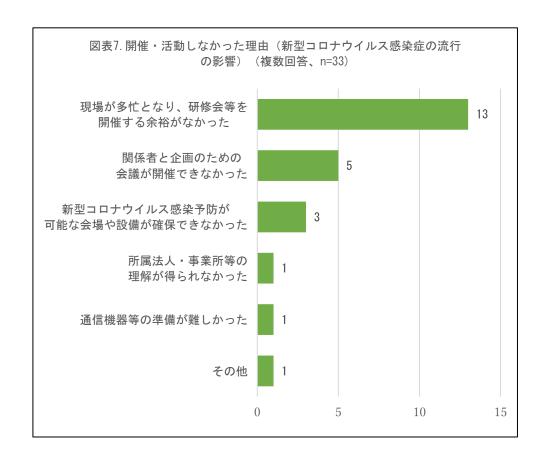


「計画した」という方で、「開催(企画・運営)を計画した」と回答したものが 86.3% (44 人)、 「講師等としての活動を計画した」が 15.7% (8 人) であった。



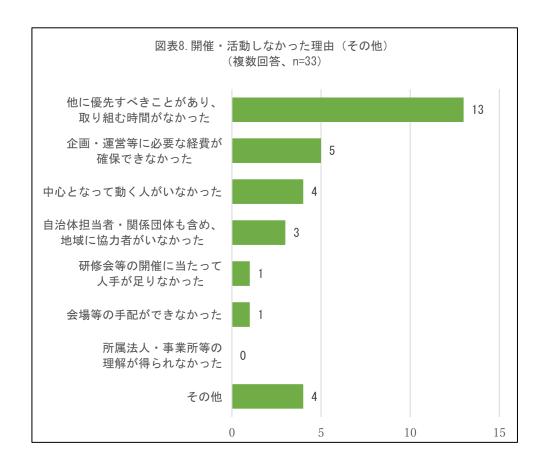
3) 開催・活動しなかった理由(新型コロナウイルス感染症の流行の影響)

新型コロナウイルス感染症の流行による影響の理由で、最も多いのが「現場が多忙となり、研修会等を開催する余裕がなかった」で 39.4% (13 人)、次いで「関係者と企画のための会議が開催できなかった」が 15.2% (5 人)、「新型コロナウイルス感染予防が可能な会場や設備が確保できなかった」が 9.1% (3 人)、「所属法人・事業所等の理解が得られなかった」「通信機器等の準備が難しかった」がそれぞれ 3.0% (1 人)の順であった。



「その他」は 3.0% (1人) で、内容は「ブロックの研修企画等もあり、事業所運営も行う中で余裕がなかった。」であった。

新型コロナウイルス感染症の流行による影響以外の理由で、最も多いのが「他に優先すべきことがあり、取り組む時間がなかった」が39.4% (13人)、「企画・運営等に必要な経費が確保できなかった」が15.2% (5人)、「中心となって動く人がいなかった」12.1% (4人)、「自治体担当者・関係団体も含め、地域に協力者がいなかった」が9.1% (3人)、「研修会等の開催に当たって人手が足りなかった」「会場等の手配ができなかった」がそれぞれ1.6% (1人) であった。

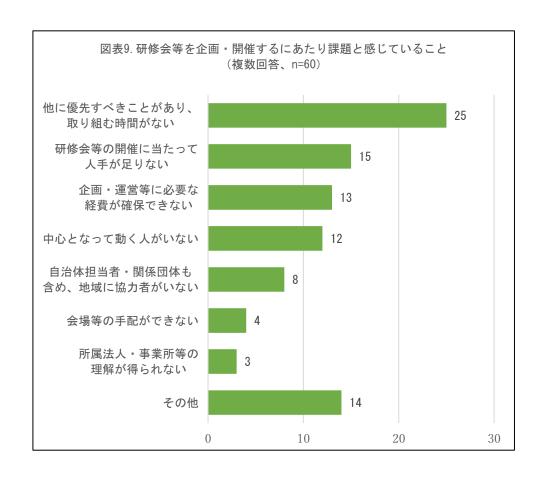


「その他」は12.1%(4人)の回答があり、その内容は

「次年度に実施予定」、「別の企画を計画し、2月に実施することになっていた」、「まだ具体的な話し合いができていないが、今年度中に開催するかもしれない」であった。

4) 研修会等を企画・開催するにあたり課題と感じていること

継続的に地域で研修会等を企画・開催していくうえで、課題と感じていることついて「他に優先すべきことがあり、取り組む時間がない」41.7%(25人)が最も多く、次いで「研修会等の開催に当たって人手が足りない」が25.0%(15人)、「企画・運営等に必要な経費が確保できない」が21.7%(13人)、「中心となって動く人がいない」、が20.0%(12人)、自治体担当者・関係団体も含め、地域に協力者がいない」が13.3%(8人)、「会場等の手配ができない」が6.7%(4人)、「所属法人・事業所等の理解が得られない」5.0%(3人)の順であった。



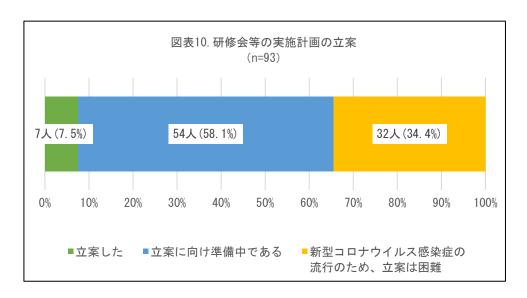
「その他」の回答は23.3%(14人)で、以下の内容が挙げられていた。(一部抜粋)

- ・新型コロナウイルス感染症の終息予測がたたない。
- ・コロナ禍のため開催についての調整が困難。
- ・地域により教育システムへの取り組み(研修)姿勢が不足している。
- ・研修会を開催しても、参加者が少ない。より魅力的な研修会を企画することが必要である。
- ・主催者(看護協会主催、県、連絡協議会等)が独立して研修会を開催している内容もあり、共催研修を検討していくことが課題と考えている。担当者を明確にしていくことも必要と考える。
- ・研修を終了後、年度内の企画実施となると、訪問看護連絡協議会の年間計画に入っていないた め次年度での企画となる。継続的に参加していくのであれば、年間計画に入れて研修前課題の 取り組む必要がある。
- ・行政、看護協会、訪問看護連絡協議会の連携が十分ではない。
- ・手伝ってくれるスタッフの負担。
- ・何から始めればよいのか自分が分かっていない。

5)研修会等の実施計画(講師として活動される場合も含む)

(1) 研修会等の実施計画の立案

今後の研修会等について、具体的に実施計画を立案しているかについて 「立案した」と回答したものは 7.5% (7人)、「立案に向け準備中である」が 58.1% (54人)、 「新型コロナウイルス感染症の流行のため、立案は困難」が 34.4% (32人) であった。

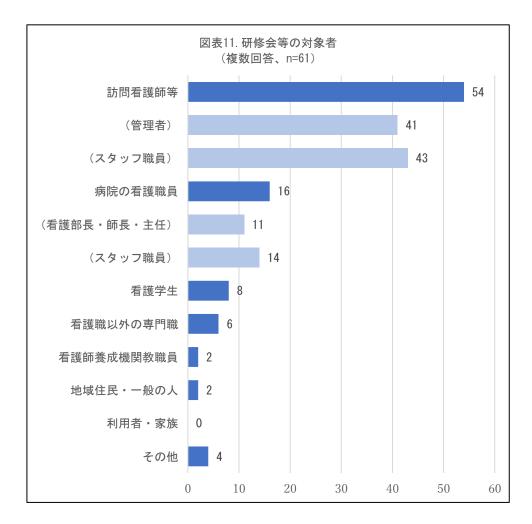


(2) 研修会等の対象者

「立案した」、「立案に向け準備中である」と回答した(61人)の方に対する研修会等の対象者についての問いに、「訪問看護師等」が88.5%(54人)であり、うち「管理者」が67.2%(41人)、「スタッフ職員」が70.5%(43人)であった。

「病院の看護職員」と回答したものは 26.2% (16 人) おり、うち「看護部長・師長・主任」が 18.0% (11 人)、「スタッフ職員」が 23.0% (14 人) であった。

他には「看護学生」13.1%(8人)、「看護職以外の専門職」(ケアマネジャー、リハビリ職)9.8%(6人)、「看護師養成機関教職員」「地域の住民・一般の人」がそれぞれ 3.3%(2人)の順であった。

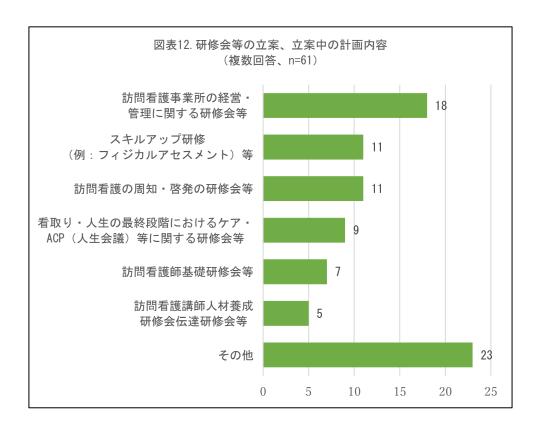


「その他」の回答は 6.6% (4 人) で、その内訳は「新人看護師」、「訪問看護をしたいと考えている看護師」、「I ターン、Uターンを考えている看護師」、「介護職員」であった。

(3) 研修会等の立案、立案中の計画内容

立案または立案中の研修会計画内容について

「訪問看護事業所の経営・管理に関する研修会等」が 29.5% (18人)、「スキルアップ研修 (例:フィジカルアセスメント)等」「訪問看護の周知・啓発の研修会等」がともに 18.0% (11人)、「看取り・人生の最終段階におけるケア・ACP (人生会議)等に関する研修会等」14.8% (9人)、「訪問看護師基礎研修会等」11.5% (7人)、「訪問看護講師人材養成研修会伝達研修会等」8.2% (5人)の順であった。



「その他」については37.7%(23人)の回答があり、内容は以下の通りであった。(一部抜粋)

- ・災害時の業務継続計画策定について
- ・新型コロナウイルス感染症対策研修
- ・医療機関と訪問看護ステーションに勤務する看護師の連携
- 利用者とのパートナーシップ、コミュニケーション
- ・訪問看護事業への看護師の確保定着に向けた取り組みについて
- ・複数事業所の共同体制について

(4)計画の進捗状況(自由記載)

今年度開催予定及び立案中

- ・2月開催に向け講師を選定した
- ・2月に管理者カフェ開催予定
- ・3 月に訪問看護講師人材育成研修会の伝達講習を準備している。5 月からの新人研修を企画するために担当者と共同し、計画書を作成予定。
- ・計画を立案し、2022年2月に開催予定(コロナ感染あり、開催どうなるか未定)
- ・共同体制構築に向け、コロナ対応で対応された事業所より、講義を調整し実施した。
- ・介護職に対して感染防止対策の対面研修を行った。次回は座学の予定。病院看護師と一緒 に看取りを考える、皮膚排泄ケアに関して予防方法・ケア方法に関しての勉強会を企画中
- ・県内の訪問看護従事者を増やすための取り組みとして、訪問看護の魅力発信を行う。1月にR3年度研修修了者で、研修計画案を作成し、2/14に過去の受講者、ナースセンター、県庁関係課に研修報告と、今後の研修について検討する。
- ・研修の内容について、一緒に講師を務めるメンバーと計画している。
- ・研修会の内容立案、関係機関への協力依頼、関係者での打ち合わせ調整 (1~2月)
- ・既存の研修に今回計画した内容を盛り込んで実施することになっている
- ・新型コロナ禍にてリモート開催予定であるが、管理者カフェとして開催方向。地域別に分けて、気軽に地域の問題や困っている課題についてなど、話し合ってもらえるように企画している。
- ・研修の大筋は決定し、準備中である。
- ・訪問看護連絡協議会にて研修会を行う予定で、その運営に参加する。
- ・地区のステーション連絡会協議会のスタッフと企画書を作成し、病院スタッフと打ち合わせをした。
- 講師の依頼、会場の手配、協力者の募集。
- ・研修計画を企画するとともに、講師交渉の日程調整を始めているところ。
- ・研修会で立案した研修を実施するために福井県訪問看護ステーション連絡協議会に協力してもらう予定で進めている。来年度の総会の特別講演として講師を招き実施する予定である。
- ・県の職員と訪問看護連絡協議会とコラボして企画・運営中。zoomで会議開催。
- ・講師の先生と打ち合わせ中。
- ・参加者 5 名と連絡協議会の協力を得て、計画を立案。講師の選定、会場の手配、研修開催 の方法について検討、決定事項について動いているところ。
- 現在計画中
- ・令和4年度の訪問看護管理者研修で行う研修の具体的な内容を検討中。
- ・研修会開催に向けた打ち合わせを行った。
- ・研修計画作成、会場確保、講師調整中と日時調整中。
- ・看護専門学校での講師依頼がある。授業の一環で訪問看護の周知に関する時間をいただけ そうなので計画している。

立案に向けた準備中

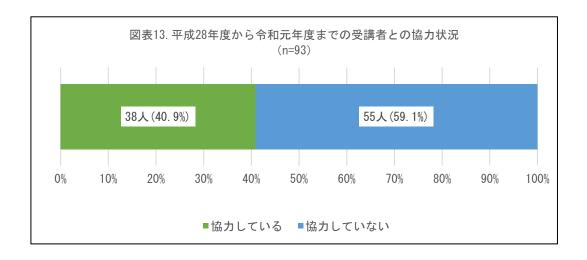
- ・今後zoom会議開催し、研修内容を具体的にしていく。
- ・保健所で開催される訪問看護ステーション管理者会議にて訪問看護講師人材養成研修会の報告を行い、地域における課題について提議した。今後、保健所の保健師と研修について検討予定。
- ・令和4年度の企画提出に向けて、事前に関連研修の受講や情報収集を行っている。
- ・計画を立案するための実態調査、分析の実施。
- ・府として予算が確保できないとのことであった為、令和四年度の既存の研修会に今回のグループで加えてほしいと話し合った内容を府から提出する。
- 未だ計画書立案のみ。
- ・令和4年度の研修会はある程度決まっているので、同年にこの研修会を行うか、翌年に回すかから検討していくところ。
- ・年度末に県へのプロポーザルにて事業費(計画書)を出す予定で準備中。
- ・訪問看護ステーション協議会研修委員会の中で令和 4 年度の研修計画に、BCP 作成について盛り込めないか提案中。今現在、実施可能かどうか協議中。
- ・来年度以降、どこの団体の事業費で予算が立てられるのか検討中。
- ・事業費を獲得するための計画書を作成・提出した。
- ・組み込んでもらう研修先に相談予定。
- ・具体的には今後計画していく段階。
- ・県の担当の方とメンバーでの会議を今週末に予定。その後計画をしていく予定。
- ・県内で話題提供をしてくださる対象者を発掘中。
- ・企画会議を検討中。
- ・1月中にグループで話し合いを計画中。
- ・長期、長時間の研修は参加へのハードルが高いため集客率を考慮し短時間での交流会が 妥当と判断。R4年度の決まっている他の研修を確認し、今後具体的なスケジュールを立案。
- ・看護協会から連絡協議会へ来年度の研修企画へ提案を依頼した。
- ・訪問看護ステーション協会事務局、教育担当者と次年度研修について相談するところ。
- ・来年度に講師として参加しようと考えているのみ。

その他

- ・BCP 作成に向けての講師依頼等研修会開催に向けて取り組んではいるが、日々の業務・コロナ感染再拡大にて足踏み中。地域の訪問看護ステーションへ BCP 作成されているか等の現状把握までしか進んでいない。
- ・グループワークで話合いを行ったがそれ以降まだ具体的は話あいができていない。
- ・地域住民向けの研修案はあるが、感染状況もあり、開催までには至っていない。 感染拡大 が落ち着いたら、地域の関係者とともに、企画・開催する予定。
- ・具体的には進んでいない。
- ・来年度に実施できればというところで留まっている。
- ・研修の企画までは進んでいるが、具体的な内容までは進んでいない。

6) 平成28年度から令和2年度までの受講者との協力状況

平成 28 年度から令和 2 年度の本研修会を受講者との協力状況について 「協力している」と回答したものは 40.9% (38 人)、「協力していない」と回答したものが 59.1% (55 人) であった。



(1)協力している具体的な内容

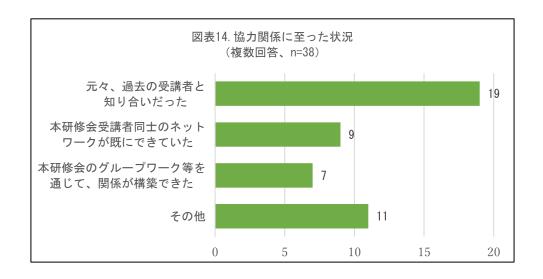
「協力している」と回答した方の具体的な内容について(自由記載・一部抜粋)

- ・研修会等の相談にのってもらい、アドバイスを頂いている。
- ・本研修会を受講された方は訪問看護ステーション連絡協議会の教育委員として活動している。 研修の開催に向けて一緒に話し合いをしている。
- ・訪問看護講師人材養成研究受講者と定期的にオンラインミーティングを実施。
- ・研修内容等についての相談や、自地域の活動について協力している。
- ・研修会受講者が同じ職場にいる。
- ・連絡協議会等に所属している中に受講者が多くいるので協力している。

(2)協力関係に至った状況

協力関係に至った状況について

「元々、過去の受講者と知り合いだった」が 50.0% (19人) で最も多く、次いで「本研修会受講者同士のネットワークが既にできていた」が 23.7% (9人)、「本研修会のグループワーク等を通じて、関係が構築できた」が 18.4% (7人) であった。

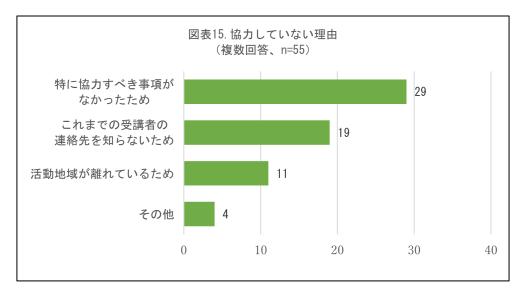


また、「その他」の回答は 28.9% (11 人) で、内容は「訪問看護ステーション連絡協議会で関わりがあった」、「受講者が同じ職場にいる」、「訪問看護認定看護師協議会会員である」等であった。

(*)協力していない理由

協力していない理由について

「特に協力すべき事項がなかったため」が 52.7% (29 人) で半数を超え、次いで「これまでの受講者の連絡先を知らないため」が 34.5% (19 人)、「活動地域が離れているため」が 20.0% (11 人) であった。

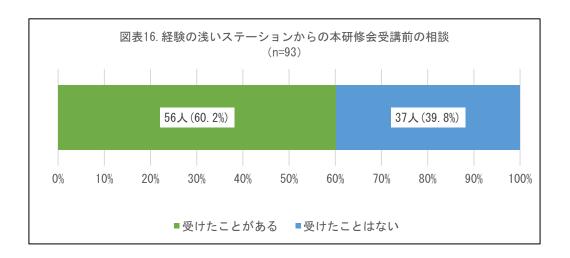


「その他」の回答は7.3%(4人)で、内訳は「他に優先事項があるため」、「現場のコロナ対策により重要度緊急度が上げることができなかった」、「以前の話しは参考として聞いたが、特に協力の依頼はしていない」であった。

7)地域の経験の浅い訪問看護ステーション等からの、訪問看護サービスやその他関係機関との調整等に関する相談への対応状況

(1) 経験の浅いステーションからの本研修会受講前の相談

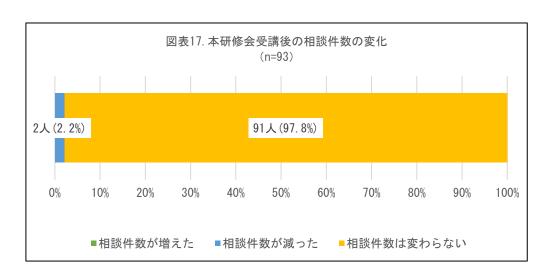
本研修会を受講する前に経験の浅いステーションからの相談を受けたことがあるかについて「受けたことがある」が 60.2% (56人)、「受けたことはない」が 39.8% (37人) であった。



(2) 本研修会受講後の相談件数の変化

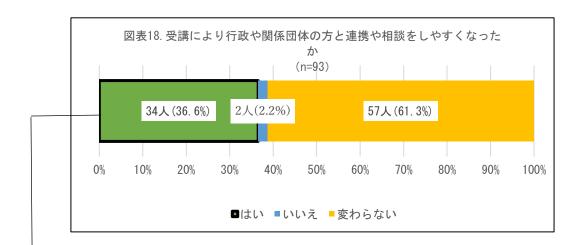
本研修会受講後の相談件数の変化について

「相談件数は変わらない」が 97.8% (91 人)、「相談件数が減った」が 2.2% (2 人) であった。 「相談件数が増えた」の回答はいなかった。

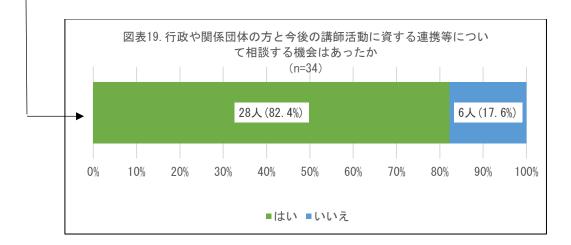


8) 受講により行政や関係団体の方と連携や相談をしやすくなったか

本研修会の受講により、都道府県担当者や地域の訪問看護関係団体の方と連携や相談をしやすくなったかについて、「はい」と回答したものが 36.6% (34 人)、「いいえ」が 2.2% (2 人)、「変わらない」が 61.3% (57 人) であった。

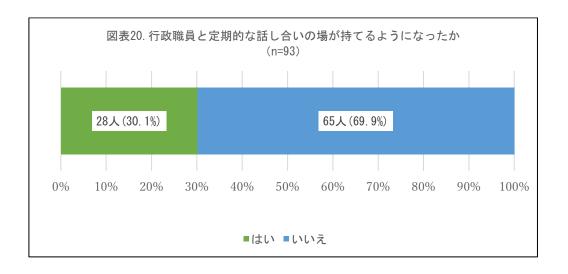


上記で「はい」と回答した34人に、都道府県担当者や地域の訪問看護団体の方と、地域の訪問看護サービスの確保や人材育成の必要性、今後の講師活動に資する連携等について相談する機会はあったか伺ったところ、「はい」と回答したものが82.4%(28人)、「いいえ」が17.6%(6人)であった。



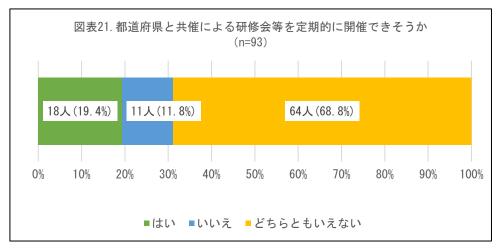
9) 行政職員と定期的な話し合いの場が持てるようになったか

都道府県の職員と訪問看護に関して定期的な話し合いの場が持てるようになったかについて「はい」と回答したものが30.1%(28人)、一方「いいえ」が69.9%(65人)であった。



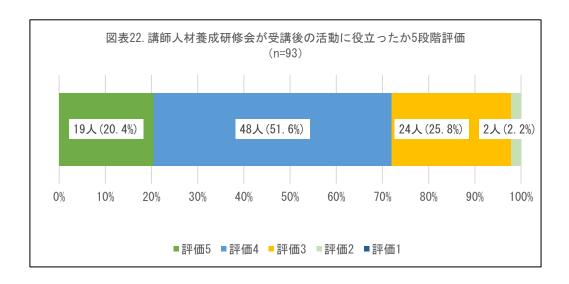
10) 都道府県と共催による研修会等の定期的な開催

都道府県と共催による研修会等が定期的に開催できそうかについて「はい」が19.4%(18人)、「いいえ」が11.8%(11人)、「どちらともいえない」が68.8%(64人)であった。



11) 講師人材養成研修会が受講後の活動に役立ったか

訪問看護講師人材養成研修会で学んだことが、受講後の活動に役立ったかについて 5段階評価で、「評価 4」51.6%(48人)と最も多く、次いで「評価 3」25.8%(24人)、 「評価 5」20.4%(19人)、「評価 2」2.2%(2人)で「評価 1」はなかった。評価平均は3.9 であった。



5段階評価の評価理由 (一部抜粋)

■評価 5

- ・研修を行う上での準備の仕方(テーマの選択、対象者、どのような方法で行うか、等)をイメージできた。
- ・知らない分野が学べた。
- ・受講者同士のつながりができた。
- ・研修を組み立てる基礎を学び、経費の捻出の仕方や、他県の取り組みや実態を知ることで自 地域の課題が明確化した。
- ・他県の研修や看護協会の研修体制を理解することができた。 県の訪問看護や在宅医療についての現状がわかり、問題点についても考えることができた。 行政の方とのパイプができた。
- ・県の考えも理解が進み、地域の現状も県の方に伝えることができた。
- ・違う視点でみることのきっかけや訪問看護の魅力について学びを深める機会となれた。講師 をするにあたっての取り組み方・考え方が今後大いに参考になると感じている。
- ・他道府県の現状をディスカッション出来、京都府との比較する中で問題点も見えてきた。
- ・自分自身が訪問看護ステーションの人材確保や育成の必要性を強く感じることができた。 関係機関と連携や相談をしやすくなった。
- ・人材育成の具体的なスキルを学ぶことができ、また他者とのグループワークでの情報共有が 今後の活動での参考となった。
- ・知識の構築になり、視野が広がった。
- ・自ステーションのことだけでなく、県の動きや訪問看護に求められることが改めて理解できた。
- ・研修会企画の考え方などが学べた
- ・現在ブロックの研修委員等をさせて頂き、また今回訪問看護講師人材養成研修会にも参加したことで、多くの管理者の方と知り合うことができ、自分自身の知識も増え、相談・協力がしやすくなった。
- ・地域の課題について県の職員や協会の役員とすり合わせができ取り組むことを明確にできた ため。
- ・訪問看護ステーションが抱える問題点を知ることが出来た。
- ・県職員の方と連携を図ることができ、訪問看護への理解協力体制が深まった。
- ・全国訪問看護協議会からの情報や取り組み、地域の中で看護協会や県の訪問看護連絡協議会 との連携を知ることができた。情勢や課題を知ることができ、県の訪問看護連絡協議会の一 員としての役割を知ることができた。
- ・地域の課題を皆で抽出したことで、訪問看護師人材育成のためにどんな研修を企画していく ことが効果的か、など今までの自身の視野が広がったと感じているから。

■評価 4

- ・研修時には、Z00Mでの話し合いや、実際に会って現状について話せる機会があり、顔の見える関係になれたと思う。
- ・研修会の企画・運営、開催等について具体的に学ぶことができたため
- ・ZOOMでの研修会で全国の方々の意見が聞けたこと。同じような課題を抱えており、その 内容から研修会開催のヒントをもらえたこと。
- ・地域の状況やステーションの課題が明確になった。

- ・研修会立案方法など、手探りでやってきたことをシステマティックに学べた。
- ・企画の考え方がわかった。
- ・訪問看護の人材育成がマンネリ化しており計画を再考するのに役立っている。
- ・今回の同県メンバーは、顔見知り程度であったが、グループワークをすることにより活動の 実際や考え方を理解することができ、今後の連携に役立つと思った。
- ・全国の方が受講されており、同じような課題に直面していることがわかった。
- ・具体的な研修プラン内容、評価基準が明確になった。
- よい学びになりました。
- ・各県での活動や、行政とどう取り組んでいるのかを聴くことができ、自県での行政や協議会 との連携について考え、取り組んでいくきっかけになった。
- ・研修をまだ実践できていないが、企画の段階で思考が広がったため。
- ・自地域の訪問看護に関するデーター、(ニーズ把握に必要な)などを知りえることもでき、根拠に基づき活動できることに繋がる。また全体研修を通じて様々な意見や取り組みを直接知る機会も貴重であった。
- ・在宅看護は、在宅生活を支えていく重要な役割で、今後も自己研鑽を行い質の向上をしてい くことが必要だと再認識できた。ラダーを活用して全体のレベルアップにつながる様活動し たいと思う。
- ・受講者の方との連携がとれ、今後協力していけそうだから。
- ・研修の企画に携わったことはなかったので、どのように研修を組み立て、他のステーション 等へ周知するのか、研修当日の流れやその後の評価の仕方など勉強になった。
- ・県の担当者や研修修了者と共に、地域の訪問看護の普及啓発に関わることの必要性を理解した。
- ・研修会の立案など通して、訪問看護の人材をいかに増やしていくか、深く考えることができた。 県職員を含むことで、訪問看護以外の人の意見、発想等色々学ぶことができた。
- ・研修会で県職員の方との繋がりや他の都道府県の状況や取り組みを知ることができた。これ からの活動に参考にさせて頂きたいと思う。
- ・訪問看護師の管理者やスッタフなどの人材育成研修を、今後も計画していく必要があると感 じた。
- ・企画するための情報収集の大事なことが良く理解できた。
- ・訪問看護の今後の方向性を考える機会になった。
- ・取り組むべき方向性が見えて気がした
- ・県内の訪問看護ステーションや県職員とのつながりができたことは、今後の活動に役立つと 考える。
- グループディスカッション等の方法がわかった。
- ラダーが作成されれば、スキルアップに繋げれるから。
- ・訪問看護の従事者獲得のため初期研修、ケースに応じた研修等現在も行われているが、今後 内容等に見直しが必要であることが明確になった。他のステーションとの情報共有や管理職 の抱える問題の相談等も行える窓口なども活用できていない、または相談窓口があることも 良くわかっていないまま活動しているステーションが多々あることも理解でき情報の発信と 共有の必要性なども明確になったと思う。
- ・今後の訪問看護師養成におけるポイントや一地域のみならず全国的にどのような事が課題と

されているのか明確になり、またどのようにして解決していくか・研修を行っていくか理解 できた。

- ・県内の訪問看護の情報を共有でき、課題を検討することができたため。また、全国の情報を 聞く機会となり、今後の活用に役立ったため。
- ・交流のきっかけが作れたので、連絡を取り合うことができている。
- ・自ステーションだけでなく、県内、県外のステーションも同様に悩み、対応していることが 判った。 人材確保ができ、ステーション運営が継続していけるようにしたい。
- ・ 県内の訪問看護ステーションの活性化の一助になる活動ができればと今まで以上に考えるようになった。
- ・講義内容や研修会でのグループワーク等で課題が見えてきたため、今後どのような活動をしていくと良いのかわかるようになった。また他の地区でも課題は同じであることが再認識できた。
- ・学べたことは実りあることである。リモート研修の多い状態で、少し温度差もあり、上手く 企画進行できるのか不安もあり、まだ実践できていないこともあるので、十分役立ったと言 い切りはできない。
- ・研修の企画や、行政との連携について学ぶ事が多かったが、今後の活動に具体的につながら なかった。
- ・具体的な活動に至っていないので評価できない。
- ・県の方にメールをしたが返事がない。研修参加の熱量が違うのか、ちょっと残念。

■評価 3

- ・予算がつかない中、研修の立案と実施は難しいものがある。
- ・基本的な姿勢や問題点が認識できたが、複数の受講者が協力して目標設定をするのが難しい。 単年度ではなく、継続的に関わっていく中で、成果を出すのが難しい。
- ・人との交流や人脈が研修会に留まり、継続性がないので実施までが困難と感じた。講義の内容については、理解でき今後も役立つ内容であった。
- ・まだ研修を実施していないが、研修を計画するうえでは役に立つと考える。
- ・受講後の活動が、何一つ出来ていないため、役に立ったかどうかは、まだ実感が湧かない。
- ・成人の学びに関して学びなおす事が出来たので、研修での言葉のチョイスの仕方など考える 事が出来た。
- ・所内でのカンファレンスの内容など日々の業務でも学んだことを振り返ることがある。
- ・知識としては役に立つと思うが、実際に活動する機会がない。
- ・研修で学んだ事を活かして活動する事がまだ出来ていないため判断が難しいが、知識として 知りえた事は役立てていきたいと思う。
- ・計画立案のプロセスや視点は初心に戻って確認する機会となった。グループワークは私個人 十分な準備ができず、また、参加日時もなかなか合わなかったため。
- ・日々の訪問看護業務が優先となり、そちらにまわらない。
- ・自身の状況に特に大きく変化がない。
- ・考える視点は勉強になった。
- ・研修会の立ち上げから、研修内容の選択の仕方を学ぶことができた。
- ・今年度は具体的な活動が出来なかった。

- ・来年度の研修会の講師を担当して評価できると思う。
- ・一人で活動をすることは困難である。新型コロナウイルス感染症の状況で活動する場や時間 が持てないため。
- ・役に立つと思うが業務優先になり難しい(3人体制の事業所の為)
- ・研修会の参加メンバーと連絡をとることが非常に困難だった。それぞれに多忙で、Z00Mでの会議調整もできていなかったし、メールでお互いの考えをやり取りするのみに終わってしまった。
- ・ステーションの横のつながりが持てた。県とのつながりはなかなか持てていない。

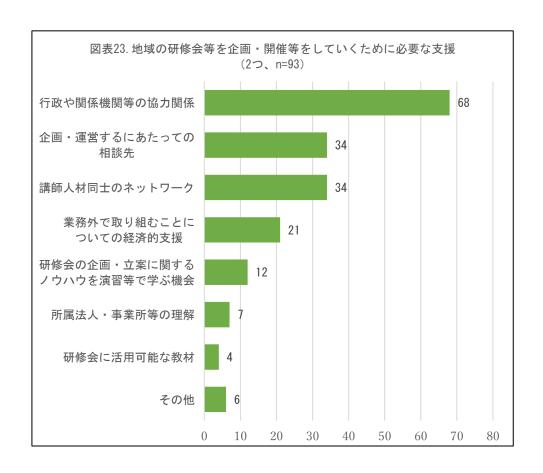
■評価 2

- ・小さな事業所なので管理を行うだけで精一杯。
- ・なかなか実践で活用するには研修時間が足りない。 表面的なことがわかったくらい。

12) 地域の研修会等を企画・開催等をしていくために必要な支援

地域の研修会等を企画・開催等をしていくためにどのような支援が必要かについて (特に必要と 思うもの2つまで)

「行政や関係機関等の協力関係」が 73.1% (68人) で最も多く、次いで「企画・運営するにあたっての相談先」「講師人材同士のネットワーク」がそれぞれ 36.6% (34人)、「業務外で取り組むことについての経済的支援」22.6% (21人)、「研修会の企画・立案に関するノウハウを演習等で学ぶ機会」12.9% (12人)、「所属法人・事業所等の理解」7.5% (7人)、「研修会に活用可能な教材」4.3% (4人) の順であった。



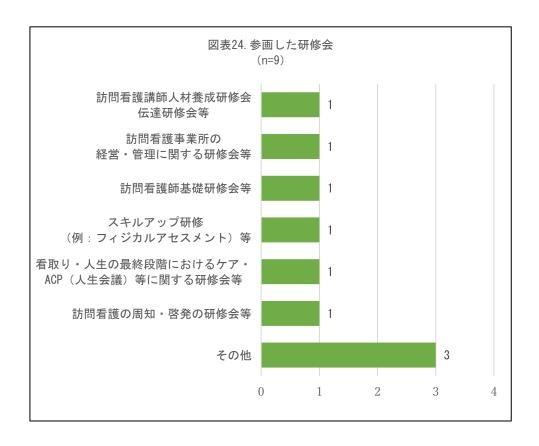
「その他」の回答は6.5%(6人)で、以下の通りであった。

- ・人材的にも、経済的もゆとりのある事業所が行うべき
- コロナ禍で地域ニーズを把握するためのノウハウ
- ・自地域での訪問看護ステーション間の連携
- 時間的余裕

2. 「研修会を開催した」「講師として活動した」と回答した人(9人)の研修会詳細について

①参画した研修会について

「訪問看護講師人材養成研修会伝達研修会等」、「訪問看護事業所の経営・管理に関する研修会等」、「訪問看護師基礎研修会等」、「スキルアップ研修(例:フィジカルアセスメント)等」、「看取り・人生の最終段階におけるケア・ACP(人生会議)等に関する研修会等」、「訪問看護の周知・啓発の研修会等」がそれぞれ1人ずつ(11.1%)であった。



「その他」は33.3%(3人)で、以下の通りであった。

- · 訪問看護供給体制確保促進事業
- ・複数事業所の共同体制について
- ・介護職に対して、PPE の着脱方法、汚れを可視化し手洗いの方法の見直し

②研修会のタイトル

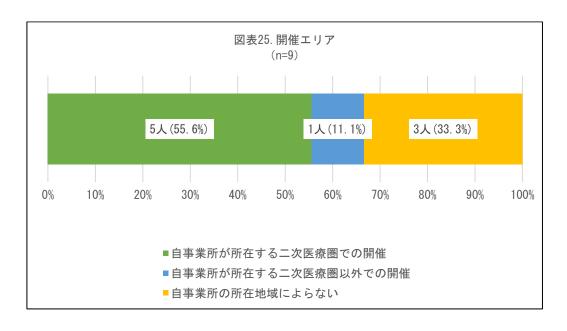
- 1. 新型コロナウイルス感染症の第6派に備えて自宅療養者支援に対する基本を学ぼう
- 2. PPE の正しい着脱を知ろう! 手洗いちゃんと出来てる?
- 3. 知ってる?人生会議
- 4. 訪問看護みなし指定の医療機関と訪問看護事業所等の意見交換・交流会
- 5. 精神科訪問看護の型と技
- 6. 病院と地域をつなぐ看看連携
- 7. 「人材確保と経営」

③具体的な内容

- 1. 神戸市における第4波新型コロナウイルス感染症の自宅療養・入院待機者への訪問看護の 経験から
- 2. 技術研修正しい PPE の脱ぎ方について疑似ウイルスを使用して行い、手洗いチェッカーを 利用し汚れの可視化を行った
- 3. ACP の構成や基盤となる考え方
- 4. 各施設の課題や工夫を共有し、自施設に活かすとともに、顔の見える関係やネットワーク につながることを目的とした内容
- 5. 手探りで行っているケアでなく、理論的に意図的にケアするため、精神科訪問看護の型と 技を学ぶ
- 6. 訪問看護認定看護師からの講義、グループワーク
- 7. ステーションの雰囲気作りから、スタッフの経営(コスト)意識の向上目的とした内容

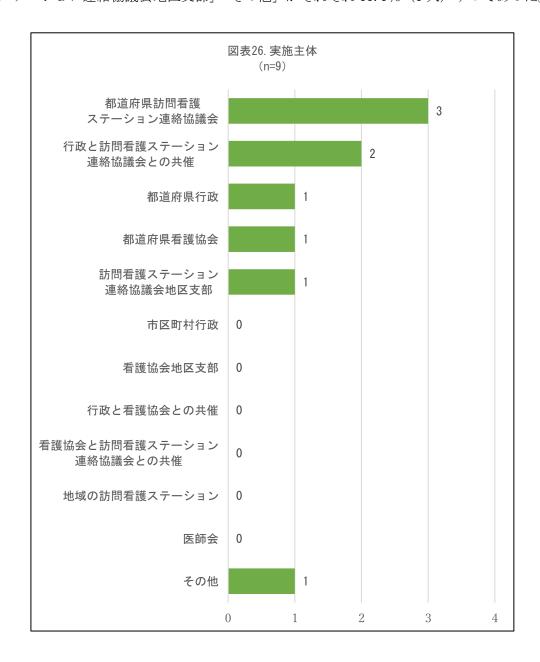
④開催エリアについて

「自事業所が所在する二次医療圏での開催」が55.6%(5人)と最も多く半数を超え、「自事業所の所在地域によらない(オンライン上での開催等)」が33.3%(3人)、「自事業所が所在する二次医療圏以外での開催」が11.1%(1人)であった。



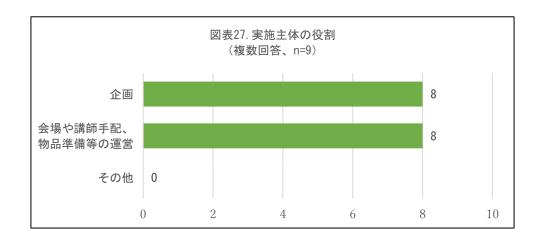
⑤実施主体

「都道府県訪問看護ステーション連絡協議会」が33.3%(3人)で最も多く、「行政と訪問看護ステーション連絡協議会との共催」が22.2%(2人)、「都道府県行政」「都道府県看護協会」「訪問看護ステーション連絡協議会地区支部」「その他」がそれぞれ11.1%(1人)ずつであった。



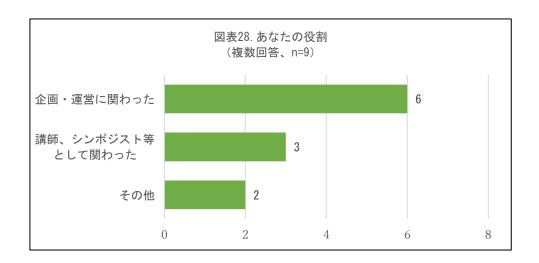
⑥実施主体が担った役割

「企画」「会場や講師手配、物品準備等の運営」がともに88.9%(8人)であった。



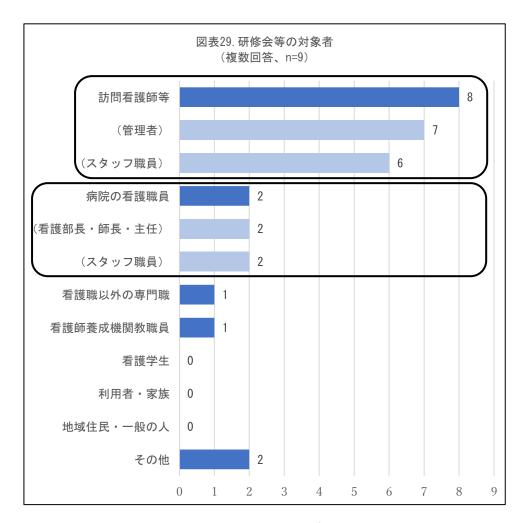
⑦あなたが担った役割

「企画・運営に関わった」が 66.7% (6人)、「講師、シンポジスト等として関わった」33.3% (3人) であった。「その他」は 22.2% (2人) で、内訳は「参加者と報告者 (人材育成研修会)」であった。



⑧対象者(複数回答可)

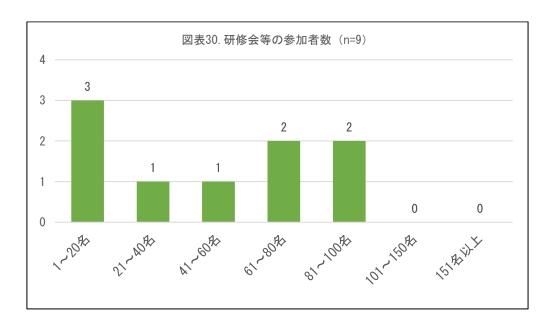
「訪問看護師等」が88.9% (8人)、うち「管理者」77.8% (7人)、「スタッフ職員」66.7% (6人)、「病院の看護職員」が22.2% (2人)、うち「看護部長・師長・主任」「スタッフ職員」それぞれ22.2% (2人)となっており、「看護職以外の専門職(理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、ケアマネジャー、医師、消防士)」「看護師養成機関教職員」がそれぞれ11.1% (1人)となっている。



「その他」は22.2%(2人)で、内訳は「行政職員」、「介護職員」であった。

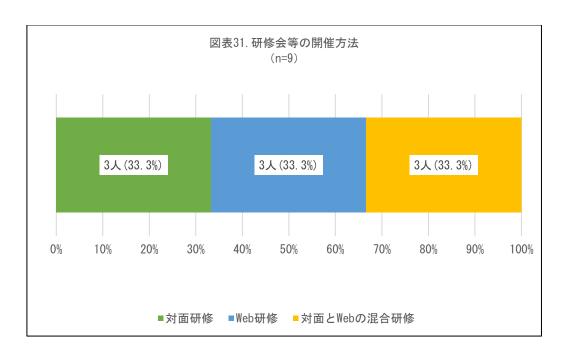
⑨参加者数

「1~20名」が33.3%(3人)、「61~80名」「81~100名」が22.2%(2人)、「21~40名」「41~60名」が11.1%(1人)であった。



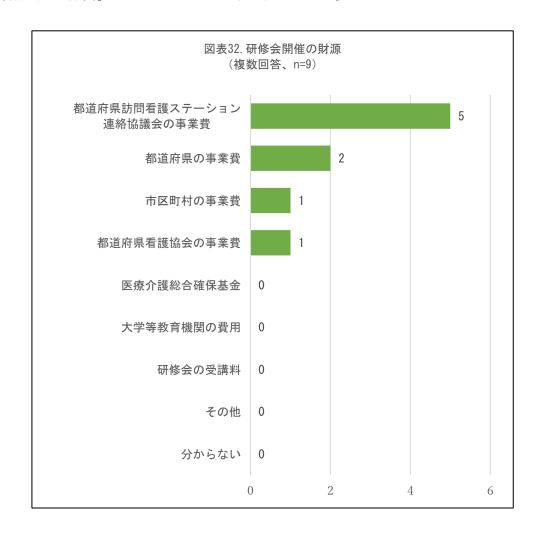
⑩開催方法

「対面研修」「Web 研修」「対面と Web の混合研修」がそれぞれ 33.3% (3人) となった。



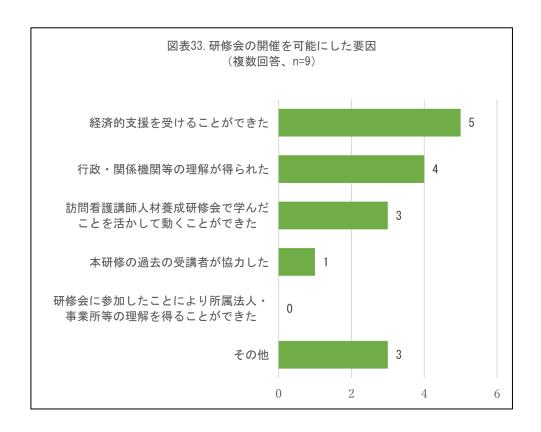
⑪研修会開催の財源(複数回答可)

「都道府県訪問看護ステーション連絡協議会の事業費」が 55.6% (5 人) で最も多く、次いで、「都道府県の事業費」(介護従事者等に対する訪問看護同行研修(多職種連携研修)、訪問看護供給体制確保促進事業) 22.2% (2 人)、「市区町村の事業費」(コロナ研修費助成金事業)「都道府県看護協会の事業費」がそれぞれ 11.1% (1 人) であった。



12研修会の開催を可能にした要因

「経済的支援を受けることができた」が 55.6% (5 人) と最も多く、次いで「行政・関係機関等の理解が得られた」が 44.4% (4 人)、「訪問看護講師人材養成研修会で学んだことを活かして動くことができた」が 33.3% (3 人)、「本研修の過去の受講者が協力した」が 11.1% (1 人) であった。



「その他」が 33.3% (3人) であり、内訳は「コロナ禍であり、必要に迫られるテーマであった」、「要望があったため」であった。

研修会の開催を可能にした各要因の内容(自由記載、一部抜粋)

■経済的支援を受けることができた

- ・県の予算を使わせて頂け、会場確保や講師、ハイブリッド機器確保が行えた。
- ・講師費用。
- ・企画されていた内容でもあったので、新たな経費が生じることはなかった。
- ・連絡協議会との共催であり、本年度コロナ感染により、研修が開催されていないことから経済的支援を受けることができた。
- ・連絡協議会が主催することで、研修費用や会場を負担してくれた。

■行政・関係機関等の理解が得られた

- ・参加者を多職種と柔軟に広げる対応の理解が得られたために希望する体制での研修が実施できた。
- ・研修会参加者へのサポート体制、協力。
- ・人材育成研修会受講時の担当者への相談により既企画の参加にいたった。
- ・養成研修に県職員2名が参加していた。 過去の受講生が連絡協議会の役員をしている。

■訪問看護講師人材養成研修会で学んだことを活かして動くことができた

- ・グループワークの進め方はロールプレイを参考に進めれた。
- ・企画について、課題から抽出する必要が分かったので方向性が見いだせた。
- ・多職種の方と、話す良い機会が得られた。

■本研修の過去の受講者が協力した

・企画、運営に過去の受講者参画があり相談しながら計画できた。

■その他

- ・共同体制についての問題がある中、コロナ禍であり、必要に迫られるテーマであった。
- ・施設職員からの連絡。
- ・例年、自施設・協議会支部で研修企画運営を行っている。

③研修会の企画・開催においての工夫(自由記載、一部抜粋)

新型コロナウイルス感染症対策関連の工夫

- ・集まりやすい時間帯や場所、開催形式(ハイブリッド)を工夫した
- ・当初ハイブリット研修を企画していたが、感染状況が悪化し全面オンライン開催とすることにした。オンラインにしたことで、小規模ステーションや、遠方であっても参加しやすくなった。
- ・会場とオンラインとであり、反応の違いなどわかるように、時間的にゆっくり進めた。

それ以外の工夫

- ・出来る限り、生の声が聞けるような講師選択を行ってもらった。
- ・精神科に限らず、全ての訪問看護に通じる内容をお話ししてくださる講師の選定。
- ・沢山の方に、話をしてほしいため、発言の機会をもうける。
- ・事前の関係者との打ち合わせにより、限られた時間の中での内容を見出せた。

(4)研修会の企画・開催しての課題(自由記載、一部抜粋)

Web 関連

- ・ハイブリッドでオンライン側に不具合が生じグループワークに参加できない人が出てしまった。
- ・受講者同士の企画・運営会議も ZOOM となることで、活発な意見交換がやや難しかった。とは感じたが、参集せずに済むことは時間を有効に使え助かった面もあった。
- ・今後の継続に関して(YouTube 化するなど)。
- ・感染状況により対面にするか web にするかギリギリまで迷った。
- ・オンラインが上手く接続できまかったり、音声が入らなかったり、会場の不具合もあった。

その他

- ・感染対策をしながら、有効な研修会を開催する事。
- ・訪問看護師への偏見(高齢となり病院勤務が難しくなった看護師がいくところ)を払拭していく必要があり、医療機関の看護管理者の理解を促進することが求められるという問題。
- ・具体的な共同体制構築を各事業所がどの様に実施していくのかが不透明。
- ・コロナ感染急増にて、研修会が開催できるか不安な状況。

(令和3年度在宅医療関連講師人材養成事業 訪問看護分野)

「令和3年度訪問看護講師人材養成研修会」 受講後活動についてのアンケート ご協力のお願い

令和3年度受講者用 ~看護師~

日頃より、訪問看護の推進につきまして格別のご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

過日は、標記研修会にご参加頂きありがとうございました。

本研修会は、地域における訪問看護の講師人材の育成支援を趣旨としており、研修を修了されました受講者を対象に研修プログラムの評価として、受講後の地域での活動に関する調査を実施いたします。ご多用中大変恐縮ですが、全ての受講者にご回答をいただきたく存じます。

なお、本調査の結果については、厚生労働省の会議等に提示させていただく他、都道府県、都道府県看護協会や都道府県訪問看護ステーション連絡協議会等が受講者の皆様のお力を活用いただく際の参考となるよう、公表を予定しています。また、講師等としての活動事例については、とりまとめるにあたって、個別にお問い合わせをさせていただく場合がありますことを申し添えます。

何卒ご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

締め切り:令和4年1月28日(金)

令和 4 年1月6日

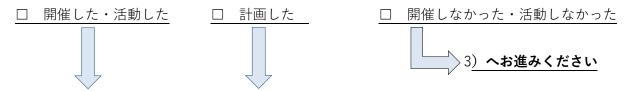
一般社団法人全国訪問看護事業協会

I. 基本情報についてお伺いいたします。

1)	都道府県名			
2)	ご所属			
3)	お名前			
4)	「訪問看護講師人材養成研	修会」受講		有り ・ □ 無し
	前の講師経験の有無			
5)	推薦元(都道府県、訪問看護	ステーショ		定例会議等で報告
	ン連絡協議会、看護協会等)	への研修会		伝達研修会の開催
	受講報告はどのように行い	いましたか		報告書による報告
	(複数選択可)			報告していない
			報告	告していない理由:

Ⅱ. 「訪問看護講師人材養成研修会」受講後の地域での活躍について

- 1. 訪問看護人材の確保や訪問看護の推進・普及に関する研修会等の開催についてお伺いします。
 - 1) 研修受講後、訪問看護人材確保や訪問看護の推進・普及に関する研修会等(技術研修・講演会など)の開催または計画をしたり、講師として活動しましたか。



2) 「開催した・活動した」方は①:研修会等を開催した回数・講師等として活動した回数をご記載ください。

「計画した」方は②:開催または講師としての活動に関する計画を立てた場合は、

□にチェックを入れてください。

		開催(企画・運営)	講師
①開催した・活動した方	令和3年度実施		□
②計画した方	令和3年度以降の 計画		

⇒回答後、4) へお進みください

3) 1) で「開催しなかった・活動しなかった」と回答された方に伺います。

新型コロナウイルス感染症の流行による影響の場合は①に、その他の場合は②に、具体的な理由をお答えください。

①新型コロナウイルス感染症の流行の影響により、開催・活動しなかった場合(複数選択可)				
□関係者と企画のための会議が開催できなかった				
□新型コロナウイルス感染予防が可能な会場や設備が確保できなかった				
□現場が多忙となり、研修会等を開催する余裕がなかった				
□所属法人・事業所等の理解が得られなかった				
□通信機器等の準備が難しかった				
□その他()				
②その他の場合(複数選択可)				
□中心となって動く人がいなかった				
□自治体担当者・関係団体も含め、地域に協力者がいなかった				
□所属法人・事業所等の理解が得られなかった				
□研修会等の開催に当たって人手が足りなかった				
□会場等の手配ができなかった				
□企画・運営等に必要な経費が確保できなかった				
□他に優先すべきことがあり、取り組む時間がなかった				
□その他()				

⇒回答後、5) へお進みください

4) 2) で「開催した・活動した」「計画した」と回答した方に伺います。

今後、継続的に地域で研修会等を企画・開催していくうえで、どのようなことが課題と感じていますか(複数選択可)。

□中心となって動く人がいない	
□自治体担当者・関係団体も含め、地域に協力者がいない	
□所属法人・事業所等の理解が得られない	
□研修会等の開催に当たって人手が足りない	
□会場等の手配ができない	
□企画・運営等に必要な経費が確保できない	
□他に優先すべきことがあり、取り組む時間がない	
□その他(具体的に)

5) 研修会等の実施計画 (講師として活動される場合も含む) について伺います。

(1) 今後の研修会等につ	□1. 立案した
いて、具体的に実施計	□2. 立案に向け準備中である
画を立案していますか	□3. 新型コロナウイルス感染症の流行のため、立案は困難
(1つ選択)	⇒以下(2)~(4)への回答は不要
以下(2)~(4)について	は、(1)で 1.立案した、2.立案に向け準備中である と回答した
方に伺います。	
(2)対象者	□訪問看護師等(管理者)
	□訪問看護師等(スタッフ職員)
	□病院の看護職員(看護部長・師長・主任)
	□病院の看護職員(スタッフ職員)
	□看護職以外の専門職(職種:)
	□看護学生 □看護師養成機関教職員
	□利用者・家族 □地域の住民・一般の人
	□その他(
(3)どのような計画を立案	□1. 訪問看護講師人材養成研修会伝達研修会等
しましたか、もしくは立	□2. 訪問看護事業所の経営・管理者に関する研修会等
案中ですか	□3. 訪問看護師基礎研修会等
(複数回答可)	□4. スキルアップ研修(例:フィジカルアセスメント)
	□5. 看取り・人生の最終段階におけるケア・ACP(人生会議)等
	に関する研修会等
	□6. 訪問看護の周知・啓発の研修等
	□7. その他()
(4)計画の進捗状況につい	(例:事業費を獲得するための計画書を作成・提出した、会場・講
てご記載ください	師・シンポジスト等を手配した 等)
(自由記載)	

0)	平成28年度から令和2	2 年度までに本研修会を受講された方と、地域の訪問看護に係る活動				
	を協力して行われているかについて伺います。					
	ロ 協力している	(1) 具体的な内容				
		(2)協力関係に至った状況(複数選択)				
		□元々、過去の受講者と知り合いだった				
		□本研修会のグループワーク等を通じて、関係が構築できた				
		□本研修会受講者同士のネットワークが既にできていた				
		□その他()				
	□ 協力していない	その理由(複数選択)				
		□特に協力すべき事項がなかったため				
		□これまでの受講者の連絡先を知らないため				
		□活動地域が離れているため				
		□その他()				
7)	地域の経験の浅い訪問者	f護ステーション等からの、訪問看護サービスやその他関係機関との				
	調整等に関する相談への)対応状況について伺います。				
	(1) 本研修会を受講す	る前に相談を受けたことがありますか				
	□ ある	口ない				
	(2) 本研修会受講後の	相談件数の変化について				
	□ 相談件数が増					
		えた				
	□ 相談件数は変					
8)	□ 相談件数は変					
8)	□ 相談件数は変	わらない				
8)	□ 相談件数は変 本研修会の受講により、	わらない				
8)	□ 相談件数は変 本研修会の受講により、 すくなりましたか。	わらない 都道府県担当者や地域の訪問看護関係団体の方と連携や相談をしや				
8)	□ 相談件数は変 本研修会の受講により、 すくなりましたか。	わらない 都道府県担当者や地域の訪問看護関係団体の方と連携や相談をしや □ いいえ □ 変わらない				
8)	□ 相談件数は変本研修会の受講により、すくなりましたか。 □ はい □ はい □ はい」と回答された2	わらない 都道府県担当者や地域の訪問看護関係団体の方と連携や相談をしや □ いいえ □ 変わらない				
8)	□ 相談件数は変 本研修会の受講により、 すくなりましたか。 □ はい □ はい 「はい」と回答された2 都道府県担当者や地域	わらない 都道府県担当者や地域の訪問看護関係団体の方と連携や相談をしや いいえ				
8)	□ 相談件数は変 本研修会の受講により、 すくなりましたか。 □ はい □ はい 「はい」と回答された2 都道府県担当者や地域	おらない 都道府県担当者や地域の訪問看護関係団体の方と連携や相談をしや				
8)	□ 相談件数は変本研修会の受講により、すくなりましたか。 □ はい □ はい 「はい」と回答されたフ 都道府県担当者や地域 育成の必要性、今後の認	おらない 都道府県担当者や地域の訪問看護関係団体の方と連携や相談をしや □ いいえ □ 変わらない □ で何います。 或の訪問看護関係団体の方と、地域の訪問看護サービスの確保や人材 講師活動に資する連携等について相談する機会はありましたか。				
	□ 相談件数は変本研修会の受講により、すくなりましたか。 □ はい □ はい ○ はい と回答された7 都道府県担当者や地域育成の必要性、今後の記しない	おらない 都道府県担当者や地域の訪問看護関係団体の方と連携や相談をしや 「いいえ」であらない 「に何います。 成の訪問看護関係団体の方と、地域の訪問看護サービスの確保や人材 講師活動に資する連携等について相談する機会はありましたか。 いいえ				
	□ 相談件数は変本研修会の受講により、すくなりましたか。 □ はい □ はい ○ はい と回答された7 都道府県担当者や地域育成の必要性、今後の記しない	おらない 都道府県担当者や地域の訪問看護関係団体の方と連携や相談をしや □ いいえ □ 変わらない □ で何います。 成の訪問看護関係団体の方と、地域の訪問看護サービスの確保や人材 講師活動に資する連携等について相談する機会はありましたか。				
	□ 相談件数は変本研修会の受講により、すくなりましたか。 □ はい □ はい 「はい」と回答された7 都道府県担当者や地域育成の必要性、今後の記しない はい 都道府県の職員と訪問者	おらない 都道府県担当者や地域の訪問看護関係団体の方と連携や相談をしや □ いいえ □ 変わらない 「に伺います。」 成の訪問看護関係団体の方と、地域の訪問看護サービスの確保や人材構師活動に資する連携等について相談する機会はありましたか。 □ いいえ 「護に関して定期的な話し合いの場が持てるようになりましたか。				
9)	□ 相談件数は変本研修会の受講により、すくなりましたか。 □ はい ② と回答された7 都道府県担当者や地域育成の必要性、今後の記しい 都道府県の職員と訪問者 □ はい	おらない 都道府県担当者や地域の訪問看護関係団体の方と連携や相談をしや 「いいえ」 変わらない 「に伺います。」 「成の訪問看護関係団体の方と、地域の訪問看護サービスの確保や人材 講師活動に資する連携等について相談する機会はありましたか。 「いいえ 「説して定期的な話し合いの場が持てるようになりましたか。 」いいえ				
9)	□ 相談件数は変本研修会の受講により、すくなりましたか。 □ はい ② と回答された7 都道府県担当者や地域育成の必要性、今後の記しい 都道府県の職員と訪問者 □ はい	おらない 都道府県担当者や地域の訪問看護関係団体の方と連携や相談をしや □ いいえ □ 変わらない 「に伺います。」 成の訪問看護関係団体の方と、地域の訪問看護サービスの確保や人材構師活動に資する連携等について相談する機会はありましたか。 □ いいえ 「護に関して定期的な話し合いの場が持てるようになりましたか。				

11) 訪問看護講師人材養成研修会で学んだことが、受講後の活動に役立ちましたか。もしくは、今後活動するうえで役立つと思いますか。5段階評価で該当する数字を選択してください。また、その理由を具体的にご記載ください。

全く役に立たなかった			-		── とても役に立った
	1	2	3	4	5

評価 【アイテムを選択してください】をクリックし、▼をクリックすると項目が出てきますのでひとつ選択してください。

番号【	アイテムを選択してください。	1	
理由:			

12) 地域の研修会等を企画・開催等をしていくためにどのような支援が必要かについて、特に必要と思う内容を2つ選択してください。

□行政や関係機関(地区医師会、都道府県看護協会、教育機関等)等の協力関係
□企画・運営するにあたっての相談先
□所属法人・事業所等の理解
□研修会の企画・立案に関するノウハウを演習等で学ぶ機会
□研修会に活用可能な教材
□講師人材同士のネットワーク
□業務外で取り組むことについての経済的支援
□その他()

受講後に研修会等を開催された方、講師等で活動された方は、 主な研修会について次ページからの 【研修会の詳細】にご記載ください。

◆ 「研修会等を開催した」「講師として活動した」と回答した方に、開催した研修会の詳細(1例)についてお伺いします。

開催した、もしくは講師等を務めた主な研修会(1例)についてご回答ください。 なお、実践事例を全国訪問看護事業協会等のホームページ等でご紹介予定ですので、お問合せをさせていただく場合がございますことを申し添えます。

研修会の詳細

1	参画した研修会	□訪問看護講師人材養成研修会伝達研修会等	
		□訪問看護事業所の経営・管理者に関する研修会等	
		□訪問看護師基礎研修会等	
		□スキルアップ研修(例:フィジカルアセスメント)等	
		□看取り・人生の最終段階におけるケア・ACP(人生会議)等に関する研	开修
		会等	
		□訪問看護の周知・啓発の研修会等	
		□その他 ()	
2	研修会のタイトル		
3	具体的な内容について		
	ご記入ください		
	(自由記載)		
4	開催エリア	都道府県名:	
		(以下、いずれか1つを選択)	
		□自事業所が所在する二次医療圏での開催	
		□自事業所が所在する二次医療圏以外での開催	
		□自事業所の所在地域によらない(オンライン上での開催等)	
(5)	実施主体	□1. 都道府県行政	
	(1つ選択)	□2. 市区町村行政	
		□3. 都道府県看護協会	
		□4. 看護協会地区支部	
		□5. 都道府県訪問看護ステーション連絡協議会等	
		□6. 訪問看護ステーション連絡協議会等地区支部	
		□7. 行政と看護協会との共催	
		□8. 行政と訪問看護ステーション連絡協議会等との共催	
		□9. 看護協会と訪問看護ステーション連絡協議会等との共催	
		□10. 地域の訪問看護ステーション	
		□11. 医師会	
		□12. その他(具体的に:)
6	実施主体はどのような	□企画	
	役割を担いましたか	□会場や講師手配、物品準備等の運営	
	(複数回答可)	口その他(具体的に:)
7	開催にあたり、あなた	□企画・運営に関わった	

	はどのような役割を担	□講師、シンポジスト等と	こして関わった	
	いましたか	□その他(具体的に:)
	(複数回答可)			
8	対象者	□訪問看護師等(管理者)		
	(複数回答可)	□訪問看護師等(スタップ	7職員)	
		□病院の看護職員(看護部	『長・師長・主任)	
		□病院の看護職員(スタッ	ッフ職員)	
		□看護職以外の専門職(職	戮種:)
		□看護学生 □]看護師養成機関教職員	
		□利用者・家族 □]地域住民・一般の人	
		□その他()
9	参加者数	□1~20 名 □21~40)名 □41~60 名 □61~80 名	
	(1つ選択)	□81~100 名 □101 名	3~150名 □151名以上	
10			オンライン)研修 □対面と Web の)	昆合研修
11)	研修会開催の財源	□1. 医療介護総合確保基		,
	(複数回答可)	□2. 都道府県の事業費()
		□3. 市区町村の事業費()
		□4. 都道府県看護協会の		
			テーション連絡協議会等の事業費	
		□6. 大学等教育機関の費	用	
		□7. 研修会の受講料		
		□8. その他(具体的に:)
		□9. 分からない		
12	研修会の開催を可能に	要因	具体的な内容(自由記載)	
	した要因について	□ 行政・関係機関等		
	(複数回答可)	の理解が得られた		
		□ 経済的支援を受け		
		ることができた		
		□ 本研修の過去の受		
		講者が協力した		
		□ 訪問看護講師人材		
		養成研修会で学んだ		
		ことを活かして動く		
		ことができた		
		□ 訪問看護人材養成		
		研修会に参加した		
		ことにより、所属		
		法人・事業所等の		
		理解を得ることが		

		できた
		□ その他
13)	研修会の企画・開催に	工夫した点(自由記載)
	おいて、どのような工	
	夫をしましたか。	
14)	研修会の企画・開催し	課題があった点(自由記載)
	て、どのような課題が	
	ありましたか。	

☆ 質問は以上です。ご協力いただきまして、誠にありがとうございました ☆